

第2回「第2期県立高校将来構想検討協議会」における協議の概要について

1 開催日

平成26年9月2日（火）

2 協議の概要

「第3章 今後の県立高校の在り方について」の協議における主な意見

(1) 県立高校像を考える視点

- 学校に行きたくても行けない子どもがいる。こうした状況に対応する上でも、3部制の定時制の設置など、柔軟な学びのシステムを検討する必要がある。
- 理科・社会などにおいて専門の教員を配置したり、選択幅を拡大したりする上で、ある程度の学校規模を維持することが必要である。
- 学校に対して安心感・きらめき感を与えるような学習環境の整備が必要である。

(2) 基本的コンセプト

- 大学に進学させるための教育と、社会で通用する人材を育てる教育は質が違ふ。山口県の高校教育として、2つを分けて考える必要がある。
- 高校の特色にメリハリがつくよう、地域のニーズ等を踏まえながら、突出した特色づくりが必要である。

(3) 教育活動の充実

- 山口県では、工業のウエイトが高いため、工業高校においては、より高度な専門性をもった産業人材を育成するような教育が必要である。
- グローバル人材を育成するための短期留学や、豊かな心を育成する自然体験など、実体験を拡充する必要がある。
- 教育内容や方法論は今後検討する必要があるが、進学ニーズが高い中、上級学校への進学に重点を置いた高校を県内にバランスよく配置することが必要である。

(4) 教育環境の充実

- 地域と連携した特色ある学校づくりを進める上で、高校へのコミュニティ・スクールの導入は有効である。高校へのコミュニティ・スクールの導入については、高校では生徒が住んでいるところと学校の場所が違ふこともあるので、学校から地域への積極的な仕掛けが必要である。
- グローバル人材を育成する上で、世界スカウトジャンボリー開催で培ったノウハウを使うことは有効である。